

あとがき

明石工業高等専門学校
プロジェクトリーダー 鍋島康之

平成 24 年度大学間連携共同教育推進事業に採択されてから、早いもので 5 年間の活動が平成 29 年 3 月で終了いたします。近畿地区の 7 高専では本事業を実施する前から国公私立の垣根を越えた連携関係があり、本事業を推進する環境が整っていたとはいえ、実際に事業を開始してみると困難な課題が色々あり、それらを解決していくために苦労いたしました。近畿地区は、1995 年に発生した兵庫県南部地震をはじめ、2011 年の紀伊半島豪雨災害など様々な自然災害を経験し、その自然災害による被害から地域の復旧・復興に協力してきた経験を有しています。本事業では、これまで各高専で蓄積されてきた防災・減災に関するノウハウ、災害時の救護・支援体験、また災害からの復興に関するノウハウを近畿地区の高専で共有し、防災・減災に関する教育ネットワークを構築することにより、防災や減災に関する専門的な知識を持った高専生を養成することを目的として始めました。そして、高専生に必要な防災教育とは何かを模索した 5 年間であったと思います。

本校では平成 25 年度から、近畿地区 7 高専全体としては平成 26 年度から、防災・減災の基礎的な内容を学習する「防災リテラシー」科目が実施され、これまでに 7 高専で 3,300 名以上の学生がこの科目を受講しています。また、この科目をさらに広めるため、平成 27 年度にテキスト「防災リテラシー」を森北出版から出版するとともに、日本防災士機構が実施する「防災士」の養成研修機関としても認定していただいています。この結果、近畿地区 7 高専には 400 名近くの防災士の資格を取得した学生が誕生しています。これらの成果は、他の地域では見られない活動だと考えています。

本事業では防災リテラシー教育の他にも、災害時に役立つ乗り物コンテストや近畿地区 7 高専連携シンポジウム、「人とのつながり再生」プロジェクト、防災リーダー研修など、様々な事業をこの 5 年間で実施し、それぞれの事業で多くの成果を残しています。特に、災害時に役立つ乗り物コンテストでは、高専生ならではのアイデアで、災害時も役立つ実用可能な乗り物を提案してくれ、地域の防災行事などへの貸し出しなど、地域との防災活動を活性化させる役割も果たしてくれました。また、全国プログラミングコンテストでの「マンホールで避難誘導」特別賞受賞など、輝かしい成績を残してくれています。今後、本事業で学んだことをベースに、それぞれの専門分野で活躍してくれることを期待しています。

最後になりましたが、本事業にご協力賜りました兵庫県、兵庫工業会をはじめ各地方自治体のステークホルダーの方々、近畿地区 7 高専の教員・職員・学生の皆様に感謝の気持ちを込めて、最終のご挨拶とさせていただきます。5 年間ご協力ありがとうございました。